

責任者 コーディネーター	全学教育推進機構長 田島克巳教授 医学教育学講座地域医療学分野 伊藤智範教授 医学教育学講座医学教育学分野 高田亮准教授				
担当講座	(医学部) 内科学講座消化器内科分野、糖尿病・代謝・内分泌内科分野、循環器内科分野、呼吸器内科分野、リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野、血液腫瘍内科分野、脳神経内科・老年科分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科学講座、形成外科学講座、小児科学講座、耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座、眼科学講座、皮膚科学講座、泌尿器科学講座、神経精神科学講座、放射線医学講座、麻酔学講座、臨床検査医学・感染症学講座、救急・災害医学講座、総合診療医学講座、病理診断学講座、医学教育学講座医学教育学分野/地域医療学分野 (歯学部) 歯科保存学講座う蝕治療学分野、歯周療法学分野、補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、歯科麻酔学分野、歯科放射線学分野、口腔保健育成学講座歯科矯正学分野、口腔医学講座関連医学分野 (薬学部) 薬科学講座創薬有機化学分野、構造生物薬学分野、分析化学分野、生物薬学講座機能生化学分野、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床医化学分野、薬剤治療学分野、医療薬科学講座創剤学分野、薬物代謝動態学分野、衛生化学分野、臨床薬学講座臨床薬剤学分野、情報薬科学分野、地域医療薬学分野、薬学教育学分野 (看護学部) 共通基盤看護学講座、地域包括ケア講座、成育看護学講座、看護専門基礎講座				
担当教員	(医学部) 宮坂昭生准教授、千葉拓助教、肥田頼彦助教、長島広相特任准教授、鈴木悠地特任講師、佐々木了政助教、鈴木真紗子講師、梅呂晃准教授、吉田研二特任准教授、迫田直也助教、出口博之特任教授、及川龍之介助教、曾根至助教、外館玄一朗特任准教授、阿部俊彦助教、村井憲一特任准教授、鎌田啓文助教、井藤稜人助教、三田俊成助教、菊池光洋特任講師、大畑光彦准教授、藤原亨准教授、星川浩一講師、大間々真一准教授、杉本亮助教、高田亮准教授 (歯学部) 千田弥栄子助教、東兼司助教、村井治助教、千葉学助教、今一裕准教授、深澤翔太准教授、横田潤講師、古城慎太郎特任講師、山谷元気特任講師、小松祐子助教、佐藤健一教授、佐藤仁助教、金森尚城助教、佐藤和朗教授、桑島幸紀特任准教授、千葉俊美教授 (薬学部) 辻原哲也准教授、稲垣祥助教、阪本泰光教授、藤本康之准教授、中西真弓教授、關谷瑞樹准教授、奈良場博昭教授、藤原俊朗講師、高橋巖特任講師、那谷耕司教授、三部篤教授、手塚優助教、杉山育美講師、幅野涉教授、寺島潤講師、杉山晶規教授、工藤賢三教授、朝賀純一准教授、高橋宏彰助教、西谷直之教授、佐京智子助教、氏家悠貴助教、高橋寛教授、松浦誠特任教授、白石博久特任教授 (看護学部) 菖蒲澤幸子教授、佐藤奈美枝准教授、柏木ゆきえ准教授、小林由美子講師、伊藤奈央准教授、岡田康平講師、小坂未来講師、武田邦子講師、松田悠史助教、遠藤太教授、岩渕光子教授、野里同准教授、熊地美枝准教授、高崎邦子講師、館向真紀特任講師、菊池佑弥助教、藤原弥生助教、赤井純子助教、藤澤純子助教、五日市瑠美子助教、高橋亮教授、蛸崎奈津子教授、遊田由希子特任教授、最上玲子講師、伊東佐由美講師、西里真澄講師、高橋淳美講師、遠藤龍人教授、塚本恭正准教授、一ノ渡学講師				
対象学年	6 (医歯薬) 4 (看護)	期間	前期	区分・時間数	演習 7.5時間

■ 学修方針 (講義概要等)

専門職連携教育 (Interprofessional Education) の一環として、修得した医学・歯学・薬学・看護学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多角的に検討する。

■ 教育成果 (アウトカム)

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、患者と家族、あるいは職種間での適切なコミュニケーションを行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。医 DP 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 歯 DP 2, 3, 4 薬 DP 2, 3, 5, 6 看 DP 2, 3, 4, 7

■ 到達目標 (SB0s)

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を説明できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点の抽出・解決法の提示により、チームに貢献できる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファレンスに積極的に参加し、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチームに配慮し、情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒に病の克服に向けた活動をするための、インフォर्मド・コンゼントや生活指導を試みる。

■ 成績評価方法

ルーブリックでチーム作業評価 (75%) し、発表会評価・成果物評価等 (25%) により評価する。
発表後、指導教員よりフィードバックを行う。欠席者については別途課題を指定するものとする。

■ 事前学修時間・内容

指定された症例の事前課題について、各学部の専門分野に基づき教科書や参考書等を利用して調べ、**学部内で討議し治療方針の根拠や注意点について他学部に説明できるよう準備すること。同作業には、41時間以上を要する。**

■ 特記事項・その他

開催日：令和6年4月20日 (土) 1限～5限 会場：矢巾キャンパス
※新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、Zoom等を使用した非対面式で実施する。
※実施方法、評価表等は別紙概要を確認すること。